

審判規則委員会より

(1) あいさつ(審判規則委員会委員長 白鳳中学校 岡田 崇より)

平素は、各種大会を円滑に運営するにあたって、各チームの先生方および生徒のみなさんに審判担当のご協力をいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大の防止を考慮しながらの大会開催は、今後ももうしばらく続いていくと想定されます。そのために何かとご苦勞、ご迷惑をおかけすることが生じる可能性があると思いますが、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、誠に申し訳ありませんが自分は当日所用により総会を欠席させていただきます。審判委員長代理として片桐中学校の奥田真弓(公認A級審判員)が説明致しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 昨シーズンの反省

①大会の審判運営について

- ・感染症対策をふまえた試合運営のために、大会初日と2日目については、各ゾーンの第1試合は、次の試合のチームが審判役員を担当していただく形式をとっている。本年度は、この形式が各チームにも浸透し大きなトラブルなく審判運営を行うことができた。先日の県総体では、ドローのチーム名に下線を入れることで、担当チームをよりわかりやすく表示するようにした。今後も同様な表示をして審判割当を理解してもらいやすいようにしていきたい。
- ・感染症拡大による当日棄権チームが生じた場合、上記の形式では審判担当がいなくなったケースも生じ、各会場の審判担当者で当日臨機応変に対応していただいた。
(審判に当たっていたチームが棄権となり会場不在になる。など)
今後もこういった不測の事態が生じることも予測される。このような場合、参加可能ならば、1stレフェリーだけでもしていただけるように棄権した顧問の先生にお越しいただいたり(ラインジャッジは相互審判で)、当初は予定していなかった同会場にいるチームに審判を依頼したりするなど、方法は様々になることが考えられる。試合を行う両チームの同意の下、何とか試合を成立させることができるように実施方法を検討するが、そのためには他のチームの顧問または生徒のご協力が不可欠である。大会や試合は、それを支える役割をする人がなければ成立しない。その点を全ての方々にご理解いただいて、今後ともご協力をお願いしたい。

②審判を担当していただく際の準備物について

- ・音量を考えるとホイッスルを極力使用していただきたい。(一応電子ホイッスルでも可)ただし、感染症対策としてホイッスルを使用する場合は、上からマスクの着用をお願いする。お持ちの場合は、ホイッスルカバーを使用してもよい。
- ・2コート同時開催の場合もあるので、笛は2種類用意して欲しい。(短管と長管)
- ・記録用紙の記入は、生徒は鉛筆またはシャープペンでよい。(本来は青色のボールペン)感染症対策として、各チームで準備して欲しい。
- ・ラインジャッジフラッグを各会場で用意はしているが、感染症対策として各チームで持参したものを使用してもよい。

③記録用紙の記入について

- ・得点記録のミスを防ぐ目的で、数年前より記録用紙の記入を全試合でお願いしている。現在は、得点経過とタイムアウトの回数記入、試合結果の3点のみ記入している。その他にも本来はサービス順の確認、選手交代、警告等の記入もするのだが、その講習会を行う前にコロナ禍となり、講習会が実施できていないことは申し訳ないと思っている。感染症の影響が治まってくれば、講習会を企画したい。当面は現行の通りで記入をお願いしたいが、記入できる先生方、生徒を増やしていきたい思いはあるので、可能ならば全てを記入できるように挑戦してほしい。

③シーズン途中からのルール、取り扱いの変更について

- ・毎年、日本バレーボール協会では、3月末に次年度のルールや取り扱いの変更について伝達講習会を実施して、4月から各府県にその伝達を実施している。今シーズンは8月全中での新ルール適用が決定されたので、本県でも4月春季大会後からの新ルール適用とした。各種文書（今回と同じ資料）を配布し、各チームに伝達したが、混乱された部分もあったかと思われる。このあと、再確認の意味もふまえて、主に中体連に関わる可能性の高い部分をピックアップして、簡単に解説する。

(3) 6人制ルールの改正点と中体連における6人制ルールの取り扱いについての確認

文章量が多いので、時間の都合上、全ての解説を行うことは難しいので、特に本県大会に出場に参加するチームに関わる部分のみを解説する。資料をじっくり読んでいただきご質問がある場合は、審判委員長の岡田までご連絡を。

A：6人制ルールの改正点

①チームリーダー

「リベロはチームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。」

- ・チームキャプテンとは
キャプテンマークをつけた選手。
試合開始前と終了時に記録用紙にサインする。
コート上にいるときは、自動的にゲームキャプテンとなる。
- ・ゲームキャプテンとは
コート上にチームキャプテンが不在の時には、監督はゲームキャプテンを指名しなければならない。
ゲームキャプテンのみが審判員（1 s t、2 n d）に対して質問することができる。（その他の選手は行った場合は警告等の対象になる）
- ・リベロは以前はどちらにもなれなかった。
- ・リベロがチームキャプテンの時、リプレイメントでコート外に出た場合は、コート上の他の選手をゲームキャプテンに指名しなければならない。このとき、指名された選手は手を挙げて審判員の確認を受ける。この確認は試合中1回のみでよい。その選手もコート外に出た場合は、再度別の選手に同様の手続きを行う。

②ポジション

後の取り扱いの文書の図で再確認。

③スクリーン

「サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。」

- ・サービスヒットが見えないかつ、ボールのコースが見えない、両方が成立しなければスクリーンの反則とはならない。(両方が見えないことはほとんど起こらない。)

④服装

「2人のリベロはチームの他の選手と異なる色で、さらにお互いに異なる色のユニフォームを着用することができる。」

- ・県の大会では、リベロジャケットを着用するチームが多いが、本来は異なる色のユニフォームを着用することになっている。(ジャケット着用でも可)
- ・異なる色とは、対照的な色を用いたユニフォームで、明らかに違う色と判別できるデザインである。色の使い方が対照的という事ではない。

B：日本中体連における6人制ルールの取り扱いについて

①プレーの動作に関する事項

「キャッチ：ボールをつかむ、または投げること。、この場合はボールをヒット後、接触している所から離れない。」

- ・ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となる可能性がある。
- ・中高生では、ワンハンドのプレーでこの反則が起こるよりも、オーバーハンドのパスにおいてこの反則が起こっている場合がある。顔の前まで大きくボールを引き入れたり、手のひらに乗せて投げるような動作でボールが止まったと見える状況があれば反則となる。(口頭で全てを伝えるのは難しいことはご理解を)

②ポジション

- ・文章では理解しづらいので、取り扱いにある図①～③で確認を。
- ・完全に正しく並んでいるか、足の一部が重なっていれば反則とならない。
- ・横並びの関係については、センターとレフト、センターとライトだけでなく、レフトとライトの関係でも同様に重なっている状況でなければ反則となる。

③監督

- ・中体連では、部活動における適切な指導や競技場設定の観点からラリー中はベンチに着席するようにお願いしている。

C：その他の日本中体連審判規則委員会にて確認した内容

①リベロリプレースメント

この時は、中体連ではサイドライン上につま先をそろえて立ち止まるとしている。(生徒アシスタントスコアラーが確認するため)このとき礼の動作はしなくてよい。

②セット開始時のコート内での円陣

スターティングポジションの確認後に円陣を組んでもよい。ただし、リプレースメントするリベロを含めて7名までとする。(リベロ2名が入ることは不可)

審判委員会からの報告連絡は以上です。

後日、質問があれば審判委員長 白鳳中学校 岡田までご連絡ください。

(携帯：090-1444-8072)